



令和8年度 青梅市立若草小学校 学校経営方針

校長 松井 優子

1 はじめに

「豊かな学びの場 わかくさ」

今、私たちは、激しく変化する時代の真ただ中にいます。時代とともに教育に求められるものも変わってきています。そのような中、私たちは、俯瞰して物事を見る目と、先の未来を見据える目を養い、その時の最適解を選んで歩いていく必要があると考えます。

そして、これからの時代を生きる、目の前の子供たちを育てていくためには、学校はもとより、保護者の皆様一人一人のお力が欠かせません。皆様と知恵を出し合いながら、教育の現場を共に創っていくことで、若草小学校の子供たちの未来が創られていきます。

また、保護者の皆様同士のつながりもとても大切です。ご家庭ごとに環境は違います。その中で、互いを尊重し、思いやり、協力し合う関係を築いてほしいと願います。自分のお子さんだけでなく、若草小学校で学ぶ子供たち皆を育てていく意識をもっていただけると幸いです。

ご縁があってこの青梅の若草小学校に集った私たちです。皆で、よりよい学校をつくっていくために、今年度も、ご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

2 教育目標

若草のように やさしく 強く 新しく 自ら伸びる 子どもになろう

この教育目標には、若草の芽がぐんぐんと空に向かって伸びていくように、子供たち一人一人が自分らしく成長してほしいという願いが込められています。

3 目指す児童像

<p>①やさしく 強く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を思いやり、互いに助け合う子 ・相手のよさを見付け、尊重する子 ・相手との違いを受けとめ、よりよい関係を築く子 	<p>②新しく 自ら伸びる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らすすんで学ぶ子 ・失敗を恐れず、新しいことに挑戦する子 ・自分を振り返り、調整する子
---	--

人とのつながりの中で、自分も相手も大切にできる、そんな「やさしさ」と「強さ」をあわせもつ心を育てていきます。

これからの社会を生きる力として、主体的に学び、変化を前向きに受けとめ、自分の未来を切り拓いていく姿をめざしています。

4 学校経営方針

「豊かな学びの場」を創る学校
合言葉は『一步前へ』

柱1 主体的な学びの推進	柱2 豊かな心の育成	柱3 特色ある教育活動の充実	柱4 家庭・地域との連携
①主体性を引き出す授業改善 ②体験的、発展的な学習活動の充実 ③学習環境の整備・活用	④自己肯定感、自己効力感の育成 ⑤他者を理解する心の育成 ⑥規範意識の育成	⑦体力向上に向けた取組の推進 ⑧豊かな情操を育む取組の充実 ⑨特別支援教育の充実	⑩学校情報の発信の充実 ⑪教育活動を通じた連携強化 ⑫組織的な対応の徹底

<その他の課題と方策>

教職員の働き方の改善	教職員の指導力の向上	教職員のメンタルヘルス
・校務改善委員会の設置 ・「負担感」から「やりがい」へ	・課題意識をもった研修・研究の実施 ・授業を見合う習慣作り	・相談できる環境・体制づくり ・明るく風通しのよい職場づくり

柱1

主体的な学びの推進
目標：分かる、楽しい、意欲のわく授業づくり
<p>①主体性を引き出す授業改善</p> <p>◆合言葉「わ・か・く・さ」の授業づくり</p> <p>○「わ」 わくわく学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが興味関心をもつような教材提示、ねらいの明確化、自己決定できる場の設定を行う。 <p>○「か」 かかわりの中で学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とは違う見方や考え方に触れ、自分の考えを広げる、協働的な学びの場を設ける。 <p>○「く」 くふうして学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人にあった学習を工夫しながら、個の力を伸ばす。 <p>○「さ」 さいごまであきらめずに、継続して学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘り強い取組を支援する。また、振り返りの時間を設け、学びの自覚を促し、次の学習へとつなげていく。 <p>◆校内研究の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題を「児童が考えたいくなるような授業づくり ～算数の学習を通して～」とし、研究を推進する。 ・授業を見せ合い学び合う <p>②体験的、発展的な学習活動の充実</p> <p>◆カリキュラム・マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科や総合的な学習の時間、特別活動、行事等と関連付け、学んだことを活かす場を設け、学びを深める。 <p>◆他学級、他学年との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを発表したり聞いたりする活動や、一緒に学ぶ機会を設け、目的意識、相手意識をもって学習を進める。 <p>◆外部講師の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をより深めるため、外部機関の事業の活用、専門性の高いゲストティーチャーの招へいを行う。 <p>③学習環境の整備・活用</p> <p>◆ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書や電子黒板を利用した効果的な学習を進める。 ・一人一台端末を利用した学習の深化(情報収集、思考の整理、学習のまとめや発表、学習の記録等)を図る。 <p>◆落ち着いた学べる教室環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に整理整頓を心掛けていく。 ・「教室環境のスタンダード」を中心に教室環境を整える。

柱2 ※今年度の重点

豊かな心の育成	
目標 : 個性ある子供たちが共に安心して学ぶことができる環境づくり	
<p>④自己肯定感、自己効力感の育成</p> <p>◆日常生活の中での声掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供同士が互いを認め合ったり、よいところを見付け合ったりする活動を取り入れる。 ・教師は、子供の頑張りや模範となる行動をしっかりと見取り、価値付ける言葉掛けを行う。 <p>◆生活指導や特別活動の取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エールウィークや集会を利用して、学校全体で自己肯定感を高め、思いやりの心を育む。 	
<p>⑤他者を理解する心の育成</p> <p>◆特別活動における異学年交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり班活動、クラブ・委員会活動を通して、異学年における交流を行う。 <p>◆わかき学級との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や内容、実態に応じて、授業や行事、特別活動を通じた交流を行い、互いの理解を深める。 <p>◆中学校、保育園、幼稚園との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動、いじめ防止運動、進路相談、学校見学等を通して連携を深める。 	
<p>⑥規範意識の育成</p> <p>◆自分から挨拶を交わす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達同士や教師、訪問者へ、自ら挨拶(会釈・お辞儀を含む)を行い、社会生活の基本的なルールを学ぶ。 <p>◆「若草小の学びの約束」の統一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールの意味や必要性を考え、理解した上で約束を守っていく。 <p>◆昼会や集会を活用した啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼会時の週番の話や長期休業前の指導を通して、子供たちが安全で楽しい生活を送れるようにする。 	

柱3

特色ある教育活動の充実	
目標 : 多様で豊かな学びの場を創出する	
<p>⑦体力向上と生涯スポーツに向けた取組の推進</p> <p>◆体育の授業、休み時間、体育週間の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の目標を設定した活動を重視する。・年間を通して、なわとびや持久走等に取り組み、体力の向上を図る。 	
<p>⑧豊かな情操を育む取組の充実</p> <p>◆アーティストの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現する楽しさを感じたり、芸術に親しんだりすることができる機会の充実を図る。 <p>◆読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回、読書旬間を設定し、図書委員会の取り組みを中心に本に親しむ機会を設ける。 ・青梅図書館員による出張お話し会や、図書ボランティアによる読み聞かせ、司書によるブックトーク等を実施する。 	
<p>⑨特別支援教育の充実</p> <p>◆研修会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教室教員による研修会や巡回心理士による研修会を設け、特別支援教育に対する教員の理解を深める。 <p>◆専門職員による授業観察とフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、巡回心理士やスクールカウンセラー、特別支援に関わる教員による授業観察とフィードバックを実施。 	

家庭・地域との連携	
目標 : 地域の教育力を学校教育に生かす	
<p>⑩学校情報の発信</p> <p>◆<u>家庭・保護者に向けた連絡や情報発信の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学年だよりの他、まなびポケットやあんしんメールを活用して細やかに連絡事項を伝えていく。 <p>◆<u>ホームページの定期的更新</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な掲載に向けて、実現可能なシステムを整えていく。 	
<p>⑪組織的な対応の徹底</p> <p>◆<u>保護者からの相談に対する対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に応じ、迅速に対応する。学年主任や生活指導主任、管理職へ報告し、適宜、校内委員会や学校いじめ対策委員会等を設けて対策を講じる。必要に応じて、スクールカウンセラーや教育相談室等につなげる。 	
<p>⑫教育活動を通じた連携強化</p> <p>◆<u>家庭学習の定着</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各家庭に、家庭学習の内容や方法を伝え、取り組む様子を見守りやチェックをお願いする。 <p>◆<u>行事等のサポート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会や PTA を中心に、行事や活動のサポートを依頼し、教育活動を共に支えていく風土をつくる。 	